

一般情勢報告

日本労働總同盟 九州聯合會長 伊藤 卯四郎

過去一ヶ月間の我國労働階級の實際生活の状態は依然として暗雲に塞ぎされ、何にか近く暴風雨にでも襲れそうに不安に取

り圍まれてゐた。
世は擧げて軍需インフレーションに景氣に踊つてゐるのに労働階級のこの不安は、何に因つて起つて来たのであるか。國際情勢は依然としてその危機を益々深刻化し、世界列國の軍備擴張競争を中心に我國の軍需事業は愈々旺んとなり、更に爲替不安に依つて日本商品の海外輸出は益々増大し、外國向きの輸出産業は股盛を極めてゐるにも拘らず、獨り労働階級のみが生活不安の状態に陥つてゐるのは、今日の資本家階級がインフレーションと圓價暴落の爲替不安に因つて軍需關係の事業に於ても或は輸出産業に於ても甚だしく有利な立場に立つて巨利を収め、その甚大なる利益を資本家階級のためにのみ我儘勝手な暴配を行ひ、労働階級に對してこれが公正なる分配を行はざりし資金融關係に於ても何ら優遇の途を講ぜざるのみが却つて長時間の労働強化を強制し或は臨時工、人夫名義の制度を以て労働階級を酷使してゐるからであると言つても過言ではない。
更らに、資本家階級は今日の國際非常時を自己の利益のために逆用して、労働者の組織運動、待遇改善運動の如き労働階級の向上を圖る運動は日本の國體に反するものとして、労働階級に諷刺を以て、或は又今日の如き「非常時」の時勢に於てかゝる労働階級の諸運動を行はざりし愛國心なき者の如くに強調してゐる。國際危機の美名にかくれ、非常時局を逆用して暴利をむさぼりつゝ、一方に於て労働階級の團結運動に對しては全力を振つて壓迫を加へつゝあるは斷じて默許することの出来ぬ資本家階級の暴逆である。國際非常時を自己の利益のために逆用しつゝある資本家の陰謀と惡辣なる計畫に指擧されて、労働組合運動に

信念も確信なく、時代の流行思想に媚び「勞資一體」などを唱えて我等の戦線より脱落して裏切つて行つた者があつたのは甚だ遺憾である。

政府の労働立法には悉く反對し、インフレと爲替不安で暴利を収め乍ら労働者の待遇を少しも引き上げようとはせず、労働階級が少しでも油断しようものなら忽ち賃金値下げ、労働強化、解雇を斷行するが如き資本家階級の一方的利益のみを圖る、惡辣、陰險なる資本主義營利本位の社會情勢下では、如何なる意味に於ても「勞資一體」などと言ふ現實無視の抽象的な言葉を以て眩惑されるものではない。只だかゝる抽象的な言葉を依つて労働階級を揺亂せんとするが如き運動は、朝有事に際して労働階級の進むべき途を失わしめるのみでなく國家産業を混亂、動搖の破産に陥れるものにして、獨り労働階級として許すべからざる運動であると共に、又、國家産業の發展と平和のために、かゝる抽象的な現實無視の運動を撲滅するは我々の信念である。

我が九州聯合會の過去一ヶ月間の業績を顧る時、幸にして、かゝる如き浮薄なる運動に何ら觸れることなく、總同盟の根本方針たる健全なる労働組合主義と産業協力の實踐を如實に顯して来たことはお互に喜びに堪えぬところである。然るに、近來労働組合が不振の状態にあるかの如く唱へる意見を聞くが、これには甚だ皮相な見解であつて、労働組合を争議第義的闘争團體の如く誤解せるものか、或は左翼共産流の無責任な思想運動との熾烈なる對立闘争を中心に労働組合を見てゐた者の見解である。我々の健全なる労働組合は既に宣傳の時代を過ぎ組合の内部組織を充實し組合自らの福利事業を經營して労働組合が社會的信頼と使命を擔ひ得る實力を備へるまでに今日の我々の運動は進展、強化して来たのである。世の批評家が如何なる意見と見解を以てするも、我々は労働組合の社會的使命と事業を遂行し得る内部的組織と用意と準備が完備してゐることを限りなき喜びとするものである。

この事實を九州聯合會過去一ヶ月間の現實の上に現るに、加盟團體の消費組合の愈々健全なる經營、労働會館の建設維持、金融部、共済部等の擴充、機關新聞の刊行、精米事業の新設等組合自らの福利事業の飛躍的發展はもとより、組織運動に於ても九州聯合會關係の工場に、鞍山に、近年に見ることの出来ぬ活潑な進出をなし、組織の數が著しく擴大されてゐるのである。我々はこの過去一ヶ月間の業績に鑑み、今日までの我々の運動の根本精神を遵守して進歩するところに我々の運動の擴大と勝利が在り、労働階級の解放と國家産業の發展に協力する健全なる労働組合の使命を強力に果し得ることを確信するのである。